一般社団法人 日本LD学会
Japan Academy of Learning Disabilities

会　報 第125号

一般社団法人 日本LD学会 事務局（業務委託先）
〒162-0801 東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター（株）国際文献社
URL　https://www.jald.or.jp

・巻頭言：竹田契一先生インタビュー「日本LD学会員に期待すること　会報125号に寄せて」
・〈連続講座1〉第4回　家庭と教育と福祉の連携「トライアングル」プロジェクト
・〈連続講座2〉第4回　GIGAスクール時代における特別支援教育
・北欧教育学会（NERA/NFPF）第51回大会に参加して
・委員会リレー企画　国際委員会の取り組みについて
・PATIO ～実践の最前線～

竹田契一先生インタビュー「日本LD学会員に期待すること　会報125号に寄せて」

日本LD学会名誉会員　元特別支援教育士資格認定協会理事長
大阪医科薬科大学LDセンター顧問

Q：先生の近況を教えてください。

2009年より2018年まで上野一彦先生とコンビを組み、特別支援教育士認定協会の理事長を務めました。現在では大阪医科薬科大学LDセンターに所属しています。また、京都市や神戸市で学校や幼稚園、子ども家庭センター等で発達相談をしたり、支援者へのサポートをしたりしています。対面の講演活動も月に8回程度と増えてきました。2023年3月22日の放送記念日には、NHK厚生文化事業団等での45年間の貢献を評価されNHKより表彰されました。

Q：LD学会が産声をあげて30年になります。この30年間を振り返られての思いをお聞かせください。

第6回の大阪大会で大会長を務めました。その当時は会員も700名ほどだったのが今では10000人を超えています。学会の成長を嬉しく感じます。学会の発展に大きく寄与したことは2009年の一般社団法人化とS.E.N.Sの一般財団法人化だったと感じています。2001年頃より上野、下司両先生と竹田の3人を中心に、LD児への教育の質の向上を図るために、LD学会が先頭に立って取り組んでいこうと方向性を議論し、あるべき姿を形作ってきた日々が思い出されます。

Q：現在の支援の現状から先生が大切だと思われることはどのようなことでしょうか。

インクルーシブ教育システムが浸透し、可能な限り通常学級でサポートする意識や体制が整いつつあります。合理的配慮を受けて学びを積み重ねる児童生徒が増えたことは喜ばしいことですが、安易にICT活用をしていないか懸念もしています。学習に苦戦している子どもたちの中にはLD等発達障害が背景にある場合と、スローラーナーでありじっくり学ぶことや適切な支援を受けることで学習の定着が見込まれる場合とがあることを支援者が認識することが必要です。その上で、工夫を施しながら苦手な部分の底上げを図るボトムアップの視点と、ツールを使うなどして苦手を補いながら長所を伸ばすトップダウンの視点を認識し実践をすることが重要です。さらに、トップダウン支援への切り替えのタイミングを見極め、メリハリのある対応を行う必要があると感じています。

Q：LD学会員に向けて期待を込めて、竹田先生からのメッセージをお願いします。

日本LD学会と特別支援教育士資格認定協会は両輪です。読み書き等で苦戦している子どもたちの力になるために、LD学会では基礎と実践につながる研究を積極的に行い、まだ明らかにされていない学習障害の実態を紐解いてほしいと思っています。

また、有効な支援には正確なアセスメントが欠かせません。学会の大きな武器として持っている「LD-SKAIPシステム」を、子どもが何に困っているのか、どこから支援をしていくべきか判断するツールとして活用し育ててほしいと願っています。

Q：最後にお忙しい竹田先生がこれから行われたい余暇活動を教えてください。

コロナの状況を見ながらですが、食べ歩きをしたり、以前のようにアメリカ等への海外視察をしたりしてリフレッシュしたいなと思っています。